

# ことわざの中の反義語—意味特徴と数詞の対比

清海節子

## 1. はじめに

「苦あれば楽あり」「会うは別れの始め」などから分かるように、反義語は、ことわざのメッセージを効果的に伝えるためにしばしば用いられている。ことわざには、どのような反義語が用いられているのだろうか。本稿は、基本的な日本のことわざに於ける反義語を検討し、「一か八か」「二兎追う者は一兎も得ず」など数詞の対比を反義語として扱うことが可能であるかについて考察する。清海(2011)は、『日英比較ことわざ事典』(1996)の中で反義語が用いられている日本のことわざと、それに相当する英語のことわざを調査した。その結果、日本語のことわざに於ける反義語が英語のことわざでは反義語で表現されない傾向があることが分かった。特に動詞の反義語は、日本の30のことわざに対して、英語は2例のみで反義語が用いられていた。また、日本のことわざでは、意味に関して、空間を表す反義語が多く使用されていること、動詞は、「頭隠して尻隠さず」や「木を見て森を見ず」のように語基が同じである〔肯定—否定〕よりは、「会うは別れの始め」「売り言葉に買い言葉」のように異なる表現の反義語である相対的対立の方が若干多い等、いくつかの発見があった。参照した事典が日英比較であるため、日本のことわざの選定に偏りがある可能性も考えられる。本稿では、基本的な日本のことわざを扱い、反義語の特質を確認し、その上で、しばしば観察される数詞の対比について、反義語の観点から考察していく。以下、2項を対立した関係として扱う場合、便宜上[A-B]と表記する。

次の2節では、反義語とことわざの関係について説明する。3節では、最初に辞典による反義語の分類について述べた後、先行研究を紹介する。

最初に、意味研究に於ける標準的対立を見る。次に、森岡(2008ab)の提案する抽象概念に基づく反義語の研究と、Jones(2002)による反義語の機能について取り上げる。4節では、基本的なことわざの反義語を森岡の分類に従って調査する。5節は、数詞の対比に関して、基本的なことわざを調査し、反義語の一種として捉えられるか考察する。さらに、『岩波ことわざ辞典』(2002)を参考に、一般的なことわざの数詞を調査し、反義語とみなされる割合を検討する。6節では、結論を述べる。

## 2. 反義語とことわざ

反義語は、英語では、‘antonyms’, ‘opposites’などと呼ばれ、日本語には、反意語、反義語、反対語、対義語、対照語、対立語などの呼び方がある。本論では対立する意味の組み合わせである二語の総称として「反義語」を用いることにする。反義語の二語は、異なっていると同時に類似しているという逆説的な性質をもち、直感的には意味が最大限に離れていると感じられる一方で、反義語の分布がほとんど同じだったり、言い間違えに反義語が選ばれたりする。その理由は、反義語は意味の一つの次元では両極端にあるが、他の次元では同じからである。<sup>1)</sup>

英語と日本語のことわざを比較した奥津(2000: 31-36)によると、記憶を容易にするための修辞学上の技巧は、内容(比喩、擬人法、逆説、誇張方)と外形(頭韻、脚韻、反復、対照法、省略)に分けられる。反義語が用いられることで、意味を強め表現に面白みを加える技巧は対照法(antithesis)と呼ばれ、次のように英語と日本の例があげられている。以下例文の反義語には下線が施されている。

- (1) Penny wise, pound foolish. (ペニーに賢くポンドには愚か)  
 「一文惜しみの百知らず」  
 Young saint, old devil. (若聖人の老悪魔)  
 Much cry, little wool. (鳴き声ばかりで毛はわずか)「大山鳴動鼠一匹」
- (2) 「聞いて極楽見て地獄」  
 「爪で拾って糞でこぼす」  
 「男やもめに蛆がわき女やもめに花が咲く」

上の例では、反義語は、[wise – foolish], [極楽 – 地獄] 等と、異なる語が用いられている。しかし反義語の表現方法は一つではない。例えば、「高い」に対して「低い」だけでなく「高くない」も可能な表現である。つまり、表現の仕方は大きく分けて二つあり、異なる語彙で表現するか、または、語基を繰り返すかどうかである。従って、[肯定 – 否定] (例: [見る – 見ない]) と、[能動 – 受動] (例: [飲む – 飲まれる]) 以外では、音の重複がないことになる。異なる語で反義語を表現することわざは、少なからずあることから、「対照法」は、音の要素に依存せずに、意味的な要素だけに基づく技巧とされることも多いのである。つまり、記憶する技巧としては、反復や頭韻などの音の繰り返しのような単純な性質であるとは言えないと思われる。

### 3. 反義語の分類と先行研究

この節では、どのような種類の反義語があるのかについて、辞典と従来の研究を参考に、分類の基準を俯瞰する。3.1 は、反義語辞典を検討し、次に 3.2 では、従来の反義語の意味研究で、共有される 3 種の標準的対立を紹介する。さらに、3.3 で、森岡(2008ab)の抽象概念から考察された研究を見た後、Jones(2002)による反義語の機能について論じる。

#### 3.1 反義語辞典の分類

『反対語対照語辞典』(1999) は、反対語の条件を最小限にすることに留め、分類はしていない。反義語には共通する意味がある前提について述べている点が注目される。反対語の条件は次の 2 点としている。

- (3) i) 共通する意味をもっていること  
 ii) その上で、ある基準から見て、反対の意味をもっていること。

また、『活用自在反対語対照語辞典』(2006) と、『三省堂反対語対立語辞典』(2017) は、どちらも 6 種類に分類しているが、その基準は、同じではない。しかし 2 冊とも典型的な反義語と考えられる「二者のうち一方の語の意味を否定すると他方の語の意味になる」(例 [表 – 裏], [ある – ない]) や、意味的には反対ではなかったり、対立が不明確なもので、慣用的に対比されるもの(例 [学生 – 社会人], [和式 – 洋式], [泣く – 笑う]) も認めている。また、『活用自在反対語対照語辞典』(2006) は、1 対 1 の関係ではなく、三語以上の組み合わせで、まとまった関連語で相互に対比される三語の組み合わせ鼎立(例 [感性 – 悟性 – 理性] [気体 – 液体 – 固体] [日本料理 – 中華料理 – 西洋料理] [初等 – 中等 – 高等] [陸路 – 海路 – 空路]<sup>2)</sup>) 及び、四語から成り立つ四立(例 [吐く – 食う – 吸う – 飲む] [幼年 – 青年 – 壮年 – 老年] [義兄 – 義姉 – 義弟 – 実兄]) も反義語として扱っている。

反義語辞典ではないが、『研究社 日本語教育事典』(2012) を参照すると、反義語は「対義語」と呼ばれ、共通要素を持つ一方で、正反対の意味を持つので類義語の一種であるとみなし、次のように 5 分類されている: (i) 「両極的反義」 --- 一方が成り立つと他方が成り立たない関係(例: [大人 – 子供] [表 – 裏]) (ii) 「連続的な反義」 --- 程度の違いがあるが繋がる連続的な関係(例 [大きい – 小さい] [高い – 安い]) (iii) 「反対関係」 --- 語義の一部が対立した反対関係(例 [戦争 – 平和] [保守 – 革新]) (iv) 「逆義関係」 --- 両方が同時

に成立し方向が逆である関係(例 [あげる—もらう]) [勝つ—負ける] (v) 「対立関係」--- 中心点を基準に対立する関係(例 [前—後] [右—左])。

以上から分かるように、辞典などでは、一貫した分類方法が示されていないのが現状である。定義と用語が曖昧な上に複数あることから、どの分類が正しいと言うことは難しい。少なくとも、(3) で見たように、反義語は、共通する意味をもちながら、ある基準では反対の意味があるという大前提で捉えることはできる。

### 3.2 反義語の標準的対立

Lyons(1977), Leech(1981), 池上(1982), Cruse(1986)に従うと、反義語は、意味の観点から、以下に示す「相補性」「段階的」「方向性」の3種が標準的であると考えられる。

(4) i) 相補的(complementaries)----- 一方の否定が他方の肯定の関係になる対立

例: [女性—男性] [出席—欠席]

[等しい—異なる]

[表—裏] [いる—いない]

二語の間に中間的段階がない場合を指す。二項は独立し、連続性がない。

ii) 段階的(antonyms)----- 連続した尺度に基づき、境界線がない対立

例: [長い—短い] [古い—新しい]

[深い—浅い] [大きい—小さい]

段階的尺度は、連続した尺度に基づくもので、明確な境界線がない。

一方の否定が必ずしも他方の肯定にはならないので、「小さな象は大きな動物だ」と表現することが可能である。

尺度の高い方が無標('unmarked')になるのが特徴であり、通常「どのぐらいの長さですか」と聞き、「どのぐらい短いですか」は、短いということが前提になる。

iii) 方向的対立(directional opposition) ----- ある種の方向性に関連する対立語:

正反対('antipodals'), 反転('reversives'), 逆関係('converses')等

例: 正反対 --- [最上部—底],

[地下室—屋根裏部屋],

[始まる—終わる]

反転 ---- [入る—出る],

[昇る—落ちる], [結ぶ—解く],

[向上する—低下する]

逆関係 ---- [前—後ろ], [夫—妻],

[主人—客], [売る—買う],

[教える—習う]

その他の反義語として、「多重排除」('multiple incompatibility') はボーダーライン上の反義語とみなされ、これに当てはまるものは、[夏—冬], [北—南], [A—Z] (連続), [曜日] (循環的)等が考えられる。同様に、Leech(1981)も、一般的ではないが、次の例のようには、'hierarchic opposition' (階層的対立)と呼ぶ順序を成した対立があることも指摘している。

(5) 長さの単位 [inch — foot — yard]

週 (月曜日～日曜日)

暦の単位 (1月～12月)

[1—2—3...] (終わりに制限のない数)

### 3.3 抽象概念に基づく分類 (森岡 2008ab)

森岡(2008ab)は、反義語がことばの世界の出来事、我々の認識行為と関わるため、抽象概念を用いて反義語の性質を検討することを提案している。また、反義語の実際の用法には、常に一定の対立があるわけではないので、文脈を入れずに観念的に比べた方が、明確に把握しやすいとも述べている。森岡によると、対義的な認識は、二つの概念が反対方向にあると判断される場合に生じる。そして、抽象的な事象を把握する際に相互関係を単純明快に捉えられる。原則として語形・語種が揃っていることが条件であって、[兄—姉]は反義語であるが、\*[にいさん—あね]は成り立たないので、単に意味だけの関係でないと考えて

いる。また、言語によって反義語の二つの概念の相互関係が異なり、日本語と英語では次のような用法の違いがある（森岡，2008b:62）。

- (6) [heavy – light] (重い—軽い)  
 ‘heavy/light rain’ (大雨/小雨)  
 [high – low] (高い—低い)  
 ‘high/low spirited’ (意気盛んな / 意気消沈した)

言語内でも以下のように、表現の対象で反義語の組み合わせが異なることもある。

- (7) はしごを [のぼる—おりる]  
 川を [のぼる—くだる]  
 日が [のぼる—おちる]

森岡は、抽象概念にはどの言語でも共通して反義語が生じると考え、以下のように、「関係概念」「形情性概念」「動作性概念」の三種類に分けている。

- (8) (i) 関係概念  
 (a) 時間 例：[朝—夕]，[きのう—あす]  
 (b) 空間 例：[上—下]，[左手—右手]  
 (c) 人間関係 --- 例：[おじいさん—おばあさん]，[父—母]  
 (ii) 形情性概念 --- 形容詞・形容動詞  
 例：(和語系語基) [大き—小さ]  
 [高—低] [楽—苦し]  
 [広—狭] [長—短]  
 (漢語系語基) [静—動] [嘘—実]  
 [難—易] [清—濁] [可—否]  
 (iii) 動作性概念 --- 動詞：肯定と否定，能動と受動，相対的対立

ところで、森岡は、次のような具体名詞は反義語ではなくセット語であると主張している。

- (9) 「梅に鶯」「手と足」「椅子と机」「パンとバター」  
 「花とだんご」

同様に、抽象概念のうちの名詞性の概念は、具体名詞と同様に、反義語が存在しないと考えている（森岡，2008a:52）。そこで、[哲学—科学]，[個人—社会]，[和文—漢文]，[義務—責任]，[自然—人工] などのような対立は一種のセット語とみなすべきであると述べている。しかしながら、具体名詞は比喩的または象徴的に用いられた場合のみ、反義語として成立すると指摘している。例えば、以下に示すように、左の具体名詞は右のように比喩的に対立していると提案している（森岡，2008a:47）。

- (10) 「狼に羊」⇒ [粗野—柔順]  
 「うさぎと亀」⇒ [油断—忍耐]  
 「月とすっぽん」⇒ [上等—下等]

上の例を、森岡は比喩的（象徴的）用法と呼んでいる。つまり、抽象的な概念の対立を、狼/羊，うさぎ/亀，月/すっぽん，という具体名詞に託していると考えている。

### 3.4 反義語の機能 (Jones 2002)

反義語の従来研究は、各学者の直感を基に、各々の分類や下位分類がされてきた。さらに、特殊で数少ない例の下位分類もされている。その結果、分類の基準だけでなく、分類自体の数の多さなどが問題となっている。そこで、新たな方法として、Jones(2002)は、コーパスを用いて反義語の機能を考察している。コーパスは、一人ではなく、何千人もの直感に入り込むことができ、言語をダイナミック(動的)な側面から取り扱うことが可能であることが利点である。しかし、Jonesは、新聞をコーパスとして使用しているのだから、口語のデータが入っていないことから、一般的な言語を扱ったとは言えない。

Jonesは、データからディスコース（言説・談話）の機能を分類した。反義語のペアの共起は、単にコントラストを強調するというだけでなく、他にもいくつかの機能があることを発見した。以

下で示されるように、特に「付随的反義語」と「等位的反義語」の二種類の機能が注目される。イギリスの高級紙である『インデペンデント紙』(The Independent 1988 10/1~1996 12/31)を選び、大規模なコーパス(約2億8千万語)からサンプルとして反義語が共起している3000文を検討した。反義語は尺度の両極の価値の対立を際立たせるような役割のみであると予想しがちであるが、Jonesの主張によると、実際のディスコースでは8機能が認められている。<sup>3)</sup>その中で、「付随的反義語」と「等位的反義語」は、それぞれ4割近くで、他の機能よりはるかに割合が高い。簡潔に説明すると、「付随的反義語」は、反義語のペアが同じ文の別の語のペアの対比を強調させる機能であり、「等位的反義語」は、通例、'and'か'but'で等位接続され、総括的な意味を表す。以下に、それぞれの例と訳を挙げ、括弧には短い説明を加えた。

(11) 「付随的反義語」

'I love cooking but hate doing the dishes.'

(Jones, 2002:45)

「私は料理することは大好きだが、皿を洗うことは大嫌いだ。」

(反義語の「好き-嫌い」が、文中の「料理をする」と「皿を洗う」を対立させている)

(12) 「等位的反義語」

'...the company's policy is to recruit skilled and unskilled workers.'(Jones, 2002:35)

「...その会社の方針は、技術訓練を受けている労働者も受けていない労働者も採用する。」

(採用には、技術訓練の経験の有無を問わないという「総括的」な意味を表す)

Jonesは、反義語を次のように定義している(Jones, 2002:179)。

Antonyms are pairs of words which contrast

along a given semantic scale and frequently function in a coordinated and ancillary fashion such that they become lexically enshrined as 'opposites'. (反義語は、ある意味の尺度で対比される二語であり、「反対語」として語彙的に認められるような付随的で等位的な様式でしばしば役目を果たす。)

以下、本論に関する2機能について論じる。最初に 'Ancillary Antonymy'「付随的反義語」、次にことわざと関連する 'Idiomatic Antonymy'「慣用句反義語」を取り上げる。まず、「付随的反義語」であるが、テキスト機能として、近くの語または句のペアを対比して解釈するよう我々に指示することである。つまり、反義語は文の中で主要な対立としてではなく、より重要な別のペアの対比を知らせるための効果的な役目を果たしている。下の例では、反義語は、下線が施され、イタリック体はそれに付随して意味の対立が生じたペアである。

(13) As the Governor of Kumamoto province told me, 'This is a rich *country* with poor *people*'.

「これは、貧しい人々がいる金持ちの国である。」

上の例では、'rich'/'poor'が反義語であるが、それに付随していて本来反義関係ではない 'country' / 'people'も第二の意味の対立が創造されている。同様に、次の例については、Jonesが分かりやすく解説しているので、確認のためにみることにする。

(14) *Stamps* are popular but collecting is unpopular.

「切手は人気があるが、収集することは人気がない。」

以下の引用は、付随的反義語の由来が書かれ、文中の '4j' は、上の (14) である。

Two contrasts are presented in sentences 4j: that between the antonymous pair popular and unpopular and that between stamps and collecting. Forms of the verb to be link stamps to popular and link collecting to unpopular. In this way, some of the antonymy of popular /unpopular could be said to ‘rub off’ on stamps/collecting. This is useful because stamps and collecting would not usually be regarded as contrastive. In other words, a familiar anonymous pair is effectively acting as a lexical signal that we should interpret a non-antonymous pair contrastively... The textual function of the antonymous pair in each of these examples is to instruct us to interpret a nearby pair of words or phrases contrastively. The suggested name for this class is Ancillary Antonymy. (Jones, 2002: 38)

4j の文では二つの対立が提示されている：それらは「人気がある」と「不人気な」という反義語ペア間と、「切手」と「収集」の間の対立である。「be 動詞」が「切手」を「人気がある」と結び、「収集」と「不人気」を結んでいる。この方法で、「人気がある／不人気な」の反義性のある部分が「切手／収集」に影響を与えていると言えるだろう。この方法は便利である。というのも、通例では、切手と収集が対照的に考えられることはないからである。言い換えると、よく知られている反義語のペアは、反義語でないペアを対照的に解釈すべきだという語彙的指示としての役目を効果的に果たしている。……これらの各例の反義語ペアのテキスト的機能は、近くの語または句のペアを対比して解釈するよう我々に指示することである。この分類を、付随的反義語と名付けることにする。(訳:清海)

次に、ことわざを含む「イディオム反義語」について少し見ることにする。この機能はデータの中で、0.8%の割合しか見つからなかった。Jones

は、その定義を次のように述べている (Jones, 2002: 93-94)。

- (15) ‘The co-occurrence of an antonymous pair within a framework that would be recognized as a familiar idiom, proverb, or cliché.’  
(よく知られたや成句, ことわざ, または, 決まり文句として認識されるであろう枠組みの中で反義語の対が共起すること)

規範的な例として、次のことわざと成句が挙げられている。

- (16) Easy come, easy go. 「(得やすいものは失いやすい) 悪銭身につかず」  
Through thick and thin. 「どんなことがあっても, どんな時も」

データからの1例として次の例を挙げる。「老犬に新しい芸は仕込めない」(「古い木は曲がらぬ」「<sup>た</sup>矯めるなら若木のうち)に相当する英語ことわざである ‘You cannot teach an old dog new tricks’ が、以下のように変えられて使われている。

- (17) They evidently knew they could teach this old dog a few new tricks.  
「彼らはこの年寄りに少し新しい物事を教えられることを明らかに知っていた。」

上のようなイディオム反義語は、個々の部分から全体を捉えられずに、全体として理解される。データでは、イディオム反義語は形容詞と動詞だけに見つかったが、サンプル数を増やせば、名詞や副詞も出てきたはずだと推測している (Jones, 2002: 147)。

#### 4. 基本的なことわざの反義語調査

本研究では、『小学生のまんがことわざ辞典改訂版』を参考に反義語を調査する。基本的には、森岡の提案する分類を基準にはするが、名詞にも

反義関係が成立するとみなす。従って、以下の4分類でことわざの反義語を検討する。

- (18) ①名詞 ②関係概念 ③形情性概念  
④動作性概念

上の分類の利点は、対語の組み合わせを品詞で区別するので、調査しやすいことである。この分類を利用することにし、森岡(1987ab)の考えを取り入れながらも、反義語についての基準は緩やかにする。反義語辞典<sup>4)</sup>で確認されるか、または、ある程度の反義性を帯びて対比されていると考えられる二語を扱うことにする。以下では、対立した語には、下線が施されている。

#### 4.1 名詞

森岡は、具体名詞は比喩的または象徴的に用いられた場合のみ、反義語として成立すると考えているが、ここでは、反義語辞典で扱われているものも選んだ。以下の8つのことわざであり、体の部分を表す語(頭, 尻, 背, 腹, 尾)が、3つのことわざに用いられている。

- (19) 頭隠して尻隠さず  
後は野となれ山となれ  
甲乙をつけ難い<sup>5)</sup>  
背に腹は代えられぬ  
月とすっぽん  
本末転倒<sup>6)</sup>  
水と油  
竜頭蛇尾

#### 4.2 関係概念

森岡は、関係概念を「時間」、「空間」、「人間関係」に3分類している。これらは、どの言語にも存在するはずであり、異言語間でも共通性が一番高い概念であると考えている。なぜなら、現在の自己の中心から見える世界認識に於いて、関係概念が最も基本的であるからである(森岡, 2008a: 48)。以下、各概念を表していることわざを見ていくこ

とにする。

##### 4.2.1 時間

森岡の考えでは、「朝」は、「夕(方)」か「晩」が反対概念の組み合わせであるので、「朝」と「夜」や、「昼」と「晩」を勝手に組み合わせることはできない。また、中間点の両極にある「きのうーあす(あした)」「去年ー来年」のような組み合わせは反義語とされるが、中間と前後関係にある「今日ー明日」「今月ー来月」等はセット語であり反義語ではないとしている。しかし、本研究では、反義語の辞典で確認される場合には反義語と考えた。以下の二例に時間の反対概念が含まれている。

- (20) 明日の百より今日の五十 [今日ー明日]  
朝三暮四 [朝ー暮]

辞書によると、上の「朝三暮四」の「朝」に対する反義語は、「晩」「夕」であるが、晩も夕も「日の暮れ」を意味することから、[朝ー暮]には、対立があると考えた。

##### 4.2.2 空間

「空間」の概念は以下の7例で、東西南北からの組み合わせが最も多いことが分かる。

- (21) 犬が西向き尾は東 [西ー東]  
前門の虎後門の狼 [前ー後]  
東奔西走 [東ー西]  
南船北馬 [南ー北]  
右から左 [右ー左]  
右と言えば左 [右ー左]  
縦の物を横にもしない [縦ー横]

##### 4.2.3 人間関係

「人間関係」を表す反義語は以下の4例に見られた。

- (22) 親の心子知らず [親ー子]  
主客転倒 [主ー客]

遠くの親類より近くの他人 [親類—他人]  
人の振り見て我が振り直せ [人—我]

#### 4.3 形状性概念

森岡(2008a:49-50)は、形状性概念は、形容詞、形容動詞を指し、和語・漢語系がある。対象を二者選択で捉えることが特徴で、中間の概念がないと考え、中位がある[大—中—小]は例外的としている。森岡は形状性概念の下位分類をしていないが、ここでは、「空間」と「性質・その他」に分けて以下に例を挙げる。<sup>7)</sup>

##### 4.3.1 空間

「空間」を表すことわざは、以下7例あり、「大きい」と「小さい」の対立が4例と多く、次に「遠い」と「近い」の対立が2例ある。

- (23) 遠水近火 [遠—近]  
 一長一短 [長—短]  
小の虫を殺して大の虫を生かす [小—大]  
針小棒大 [小—大]  
大なり小なり [大—小]  
大は小を兼ねる [大—小]  
遠くの親類より近くの他人 [遠—近]

##### 4.3.2 性質・その他

「性質・その他」は、以下5例で、その内2例では、「やさしい」と「難しい」が反義語として使われている。

- (24) 言うはやすく行うは難し  
 [やさしい—難しい]  
 痛くもかゆくもない [痛い—かゆい]  
うそから出たまこと [嘘—誠]  
苦あれば楽あり楽あれば苦あり [苦—楽]  
 少年老いやすく学成り難し  
 [やさしい—難しい]

#### 4.4 動作性概念

動作性概念は動詞類の語基を指し、文法的に[肯

定—否定]と[能動—受動]が反義語関係を形成する。今回の調査では、[肯定—否定]は、4例見つかったが、[能動—受動]の例はなかった。また、異なる語彙のペアが反義語である[相対的対立]は5例あった。

##### (25) 肯定—否定

頭隠して尻隠さず [隠す—隠さず]  
当たるも八卦当たらぬも八卦  
 [当たる—当たらぬ]  
聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥  
 [聞く—聞かぬ]  
木を見て森を見ず [見る—見ず]

##### (26) 相対的対立

今泣いたからすがもう笑う [泣く—笑う]  
九死に一生を得る [死—生]  
転んでもただでは起きない[転ぶ—起きる]  
失敗は成功のもと [失敗—成功]  
小の虫を殺して大の虫を生かす  
 [殺す—生かす]

上の例で明らかであるが、語基が同じである[肯定—否定]による反義語より、異なる語の組み合わせの相対的な反義語を含むことわざの方が1つ多かった。しかし一方で、[能動—受動]の動作性概念の反義語の例は1つも見つからなかった。

#### 4.5 'Ancillary Antonyms'(付随的反義語)

3.4で、Jones(2002)による、反義語のディスコースの主な機能である'Ancillary Antonyms'(付随反義語)を見た。今回の調査では、以下の9つのことわざに付随的反義語があると認められた。ことわざの右に括弧内に、反義語に付随して対比された二語を書き入れた。

- (27) 明日の百より今日の五十 (百—五十)  
朝三暮四 (三—四)  
前門の虎後門の狼 (虎—狼)  
南船北馬 (船—馬)



言うはやすく行うは難し (言う一行う)  
 少年老いやすく学成り難し (少年一学)  
聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥  
 (一時一一生)  
 木を見て森を見ず (木一森)  
九死に一生を得る (九一一)

上の例で付随して対比された語は名詞が多いが、その中でも数詞の対比が3例あることに注目すべきである。5節で検討することになるが、このような数詞の対比の中には、反義語としてみなすべきものがあると想像される。

#### 4.6 まとめ

基本的なことわざに於ける反義語を調査した結果、「空間」に関連する意味が多いことが分かった。その理由は、関係概念の空間と形状性概念の空間の例を合計すると、14例になるからである。また、動作性概念では、[能動一受動]の例は見つからず、語基を同じとする[肯定一否定]より、異なる語の組み合わせの相対的な反義語の方が1つ多かった。Jones (2002)の唱える‘Ancillary Antonyms’(付随反義語)の例も見つけることができた。さらに、二対の反義語が含まれたことわざが次の4つあった(2種の下線を施してある):「頭隠して尻隠さず」,「遠水近火」,「小の虫を殺して大の虫を生かす」,「遠くの親類より近くの他人」。これらの結果は、清海(2011)で確認された特徴とほぼ同じである。

### 5. 数詞の対立

清海(2014)は、ことわざに用いられている数詞も検討したが、数詞の種類に注目し、その意味については考察していない。この節では、異なる2種以上の数詞がことわざに用いられる例を取り上げ、反義語として捉えるには十分な意味の対立があるかどうか調査する。最初に、基本的なことわざをデータとし、次に、一般的なことわざを対象に考察する。

#### 5.1 基本的なことわざの数詞

『小学生のためのまんがことわざ辞典』(2018)には、慣用句等も含む基本的なことわざが扱われている。本文の見出しに取り上げられている表現の数は272で、その内30の表現に数詞が含まれているので、全体数の約1割(11.03%)に相当する。これらの中には、数詞が一つのみ(例:「二階から目薬」「石の上にも三年」)または、同じ数詞が繰り返されていることわざ(例:「一朝一夕」「十人十色」)がある。本研究では、対比された2種類の異なる数詞が含まれることわざを調査する。本文中、見出し以外でも紹介されていることわざを含めると以下のように、22例に異なる数詞が含まれている。この中には、3種類、またはそれ以上の異なる数詞は含まれていない。2種の対比される数詞の最初は、「1」「2」「3」「7」「9」「50」「100」「1000」の8種である。以下、低い数の組み合わせの順に、対比される数詞と共に、ことわざを挙げる。

- (28) 「1」 — 「2」「一姫二太郎」  
 「1」 — 「2」「一も二もなく」  
 「1」 — 「2」「一石二鳥」  
 「1」 — 「5」「一寸の虫にも五分の魂」  
 「1」 — 「8」「一か八か」  
 「1」 — 「10」「一から十まで」  
 「1」 — 「10」「一を聞いて十を知る」  
 「1」 — 「1000」「一事が万事」  
 「2」 — 「1」「二兎追うもの一兎をも得ず」  
 「2」 — 「3」「二度あることは三度ある」  
 「3」 — 「4」「朝三暮四」  
 「3」 — 「5」「早起きは三両、儉約五両」  
 「3」 — 「100」「三つ子の魂百まで」  
 「7」 — 「8」「七転び八起き」  
 「9」 — 「1」「九死に一生を得る」  
 「50」 — 「100」「五十歩百歩」  
 「100」 — 「1」「百聞は一見に如かず」  
 「100」 — 「90」「百里を行く者は九十里をなかばとす」  
 「1000」 — 「1」「千載一遇」

「1000」—「10000」「千差万別」  
 「1000」—「10000」「千變万化」  
 「1000」—「10000」「つるは千年かめは万年」

## 5.2 数詞の対比と反義語

5.1 の例から分かることは、「1」が含まれることわざが 12 例で最も多いが、その理由は、「1」が「最も少ない」という意味を表現しているからだと推測できる。また、一桁では、「6」以外の全ての数が見つかった。一方で、二桁は、「10」「50」「90」の 3 種類、三桁は「100」、四桁は「1000」、五桁は「10000」だけが用いられている。

異なる数詞のすべての対比を、一種の反義語とみなすことは無理があるだろう。また、反義語として認めることができる中にも、標準的か周辺的であるかの違いがあるはずである。数詞の組み合わせや、ことわざの内容によって対立の弱化が見られることもあるだろう。「百聞は一見に如かず」では、「1」と「100」の対比は、反義語としてみなすべきである。反義語としての [1 - 100] は、「聞く」と「見る」の関係を対立させるような役目も果たしていると認められるからである。従って、この例は、Jones の「付随的反義語」の一例と捉えられる。同様に、「一から十まで」「一を聞いて十を知る」<sup>8)</sup>「一事が万事」「三つ子の魂百まで」「九死に一生を得る」「千載一遇」のように、離れた数の組み合わせは、[多い—少ない] という段階的反義語を表現していると考えられるので、一種の反義語としてみなして問題ないであろう。「一か八か」は、解説によると、博打のことばが由来で、「一」は「丁」(偶数)、「八」は「半」(奇数)の漢字の一部を使って表しているという。この説から、[1 - 8] は、[偶数—奇数]の対立と捉えることができるので、相補的反義語とみなされる。

一方、近い数詞の組み合わせはどうだろうか。「1」と「2」,「2」と「3」,「3」と「4」,「7」と「8」等のような隣り合った数や、「3」と「5」,「90」と「100」等のように大差がない数をどう扱えば良いのだろうか。まず隣り合った数で、「1」との

組み合わせを考えよう。「一姫二太郎」と「一も二もなく」は、それぞれ「子供は、初めに女の子、次に男の子の順にうまれるのが、育てやすい」「あれこれ言う間もなく」という意味である。これらのことわざでは「1」と「2」が対立としてではなく、順序として用いられていると考えられることから、矢印を用いて、[1 → 2] と示すことができる。ところが、「一石二鳥」と「二兎追うもの一兎をも得ず」は、二つを得るか二つとも得られないかの表現内容の違いがあるが、「1」と「2」があたかも相補的反義語のように対比されているように思われる。つまり、[表—裏] や、[男—女] のように、「1」と「2」だけしか存在しないという世界観が提示されている可能性があり、[1 - 2] として理解され得る。同時に、「1」は、数の少なさを強調しているとし、「2」は、その倍もあると解釈すると、[多い—少ない] という段階的反義語が弱化した周辺的反義語の一種として扱うことも可能であろう。

それでは、「一寸の虫にも五分の魂」はどうであろうか。一寸は、約 3cm で、五分は、その半分に当たる。このことわざは、「どんなに小さいものは弱いものでも、それなりに立派な意地や心を持っているので、決して馬鹿にしてはいけない」という例えであるので、小さな体の半分も魂(気力、根性)があると誇張している。表面的な数の対比は [1 - 5] であるが、実際には、[1 - 0.5] ということになる。注目すべき点は、魂は体の半分だけであるが、その割合を数字の「5」を用いて表現していることである。「寸」「分」という単位を無視して、数詞だけを比べると、「5」は「1」の 5 倍であるので、魂の大きさを伝える効果があるのではないだろうか。つまり、このことわざでは、数詞の表現が、魂の大きさを強調する役割を果たしていると考えられることから、[1 - 5] の対立が含意されていると捉えることにする。

「1」が含まれない隣り合った数の組み合わせが入ったことわざには、「二度あることは三度ある」「朝三暮四」「七転び八起き」がある。これらの数詞の組み合わせは、対立的ではなく、数を順に

並べて用いられていると考えられるので、順序を表す矢印(→)により、それぞれ、[2→3]、[3→4]、[7→8]と表すことにする。それでは、隣り合った数ではないが、「3」と「5」の組み合わせの「早起きは三両、儉約五両」は、どうであろうか。解説によると、早起きも儉約も大きな儲けになるという意味であるので、「3」も「5」も数詞としては多いとは思えないが、対立でなく、どちらの数詞も両という単位を伴い多さを強調している。このような数詞の使い方は、点[,]を用いて、[3, 5]と数詞を並列させて表すことにする。

さて、「五十歩百歩」は、「50」と「100」が隣り合った数ではなく、ある程度離れた数であるが、その意味は「多少の差があっても似たり寄ったりで大した違いがないこと」である。数詞だけの対立として、[少ない—多い]という段階的反義語としての解釈ができるかもしれない。しかし、このことわざに於いては、その内容から、「50」と「100」はそれほど差がないという解釈であるので、「早起きは三両、儉約五両」と同様に、[50, 100]と並列させてはどうだろうか。次に、「100」と「90」の対比がされる「百里を歩く者は九十里をなかばとす」を取り上げる。解説では、「百里の道程を歩く人は、九十里まで来てようやく半分だと考えなさいということから、物事をするときには、気を緩めて最後の努力を怠ってはいけないという教え」とあり、「100」と「90」の関係性は、対比されていても対立的ではなく、近い距離が並べられていると理解されるべきである。残りが10里ではあるが、50里と考えるべきであるという内容から、[100, 90]と数詞を並列させて表すべきであろう。

最後に、4桁以上の組み合わせは、どう扱うべきだろうか。「1000」と「10000」の組み合わせだけが見つかったが、これらの数詞は、反義語としての役割は見られず、両方の数詞とも「多い」という意味を表現している。「千差万別」は、たくさんのもがそれぞれ違っていることで、「千変万化」<sup>9)</sup>は、物事の様子や場面が次々と変わっていくことで、「つるは千年かめは万年」は、長生

きでめでたいことを祝う言葉を表し、反義的な意味合いはなく、多い数を並べて、多さを強調していると考えられる。このような数詞の使い方は、「早起きは三両、儉約五両」と同様に、点[,]で数詞を並列させ、これらの数の組み合わせを[1000, 10000]と表すことにする。

以上から、基本的なことわざの中で異なる数詞が含まれる22例を調査した結果、半数の11例の数詞が反義語の一種として捉えられる可能性があることが分かった。もっとも、反義語と言っても、標準的なものから弱化したと考えられるものまであり、その性質は一律ではないが、それは、数詞の対立にも当てはまる。一方で、反義語とはみなされない例は22例中11例見つかった。その内5例が、「一姫二太郎」の「1」と「2」のように、順序を表す数詞で、さらに、残りの6例は、「早起きは三両、儉約五両」の「3」と「5」、「千差万別」等の「1000」と「10000」の関係性のように対立が見られない数詞の組み合わせであることが明らかになった。

### 5.3 『岩波ことわざ辞典』の数詞対比調査

5.1-2では、子供が学ぶべき基本的なことわざでの数詞の関係性を見た。ここでは、一般的なことわざを、データサンプルとして、数詞の用法をより詳しく調査する。参考とするのは、『岩波ことわざ辞典』(2002)である。序文によると、見出し項目1500は、約半数が最近での使用頻度の高いもので、「常識のことわざ」と考えられ、残りは、広い分野から集められ「歴史的なことわざ」と位置付けられるもので、今日では、辞典や文献の中でのみ見られるものである。この辞典では、ことわざによって、同じものとみなされる代表的な異表現も挙げられているが、本稿ではそれらを、考慮に入れていない。

また、以下のことわざの後には、前節で論じたような記号を用いて数詞を表すことにする。「百聞は一見に如かず」のように2種の数詞が反義語のように対立されていると考えられる場合は、横棒(—)を用いて、[1—100]と表す。「一姫

二太郎「七転び八起き」のように対立的ではなく、数を順に並べて用いられている場合は、矢印〔→〕を用いて、〔1→2〕、〔7→8〕とする。さらに、「早起きは三両、儉約五両」や「千差万別」のように、数詞が対立的ではなく、数量を強調する等、別の効果の為に並べられている場合、読点〔,〕を用いて、〔3, 5〕、〔1000, 10000〕のように並列させることにする。ことわざの意味を確認するために、説明を( )に加えた場合があるが、『岩波ことわざ辞典』(2002)と『新明解 故事ことわざ辞典』(2016)を参考にしている。さらに、対比及び反義性に言及したコメントは{ }に入れた。二つ以上の異なる数が含まれる表現を調査した結果、70のことわざが見つかった。この中には、3種の数詞の3例、4種の数詞が含まれる1例がある。最初の数が少ない順に整理して、以下で見ることにするが、対比される数詞の最初は、「1」「2」「3」「5」「6」「7」「8」「9」「10」「20」「30」「50」「80」「100」「800」「1000」「10000」の17種類である。

(29) 最初の数が〔1〕-----23例

- ・一に看病二に薬 [1→2]
- ・一姫二太郎 [1→2]
- ・一挙兩得 [1→2]<sup>10)</sup>
- ・一度見ぬ馬鹿二度見る馬鹿 [1→2] {「見ぬ-見る」という反義語があるので、Jonesの「付随的反義語」として、〔1→2〕が対比されていると捉えることもできる}
- ・一石二鳥 [1→2]
- ・一富士二鷹三茄子 [1→2→3]
- ・一押し二金三男 [1→2→3]
- ・一に褒められ二に憎まれ三に惚れられ四に風邪引く [1→2→3→4] (くしゃみをした回数で占いごとや推測すること)
- ・のろまの一寸馬鹿の三寸 [1→3] (引き戸の閉め残しの度合いで品性が分かるということ：引き戸を閉めるとき、気の利かないのろまなのは、一寸(約3センチメートル)開けたままにするが、愚か者は、三寸(9センチメートル)も開けたままにする。{この対立〔1→3〕は、反義性が弱化した一例と捉えられる}
- ・一升徳利こけても三分 [1→3] (徳利は、首から下が膨らんでいるので、一升も入る徳利は、倒れても3分ほどは残るということから、i) 元手が大きければ少し損をしても残るものがある、ii) 本来豊かな家は、多少落ち目になっても余裕があるということ) {この対立〔1→3〕は、升と分と単位が異なるので、実際には、〔10→3〕である。しかし、三分をある程度評価した量とした内容であることから〔1→3〕とした方が、その含意を汲み取ることができる。同時に、反義性が弱化した一例と捉える}
- ・一升の餅に五升の取粉 [1→5] (「取粉」は、米の粉で、餅を扱いやすくするために表面に取粉を付けることから、小さなことを成し遂げるためには、付随的なことが多く必要である)
- ・一寸の虫にも五分の魂 [1→5] (一寸は、約3センチで、五分は、その半分：魂の存在を強調するための誇張表現である) {前節で論じたように、実質的には、〔1→0.5〕である}
- ・一人娘に婿八人 [1→8] (一つの物に対して希望する人がたくさんいること)
- ・小坊主一人に天狗八人 [1→8] (弱い一人に大勢の強いものが立ち向かうことで、力の釣り合いが取れないことのとえ)
- ・一筋の矢は折るべし、十筋の矢は折り難し [1→10] (一人でできないことも協力すればできること：一本の矢は折れるが十本の矢を折るのは難しい)
- ・一人の文殊より十人のたくらだ [1→10] (一人の優れたものの考えより、優秀でなくとも多くのものが考えたことの方がよいということ：「たくらだ」は、愚か者のこと)
- ・一を聞いて十を知る [1→10]
- ・一文惜しみの百知らず [1→100]
- ・中流に船を失えば一瓢も千金 [1→1000] (価

値のない物でも時と場合によっては非常に値打ちがあるというたとえ：中流は、河の真ん中を指し、船がそこで転覆したら、たった一つの瓢箪でも浮袋の代わりになる)

- ・小姑一人は鬼千匹に向かう [1 - 1000] (嫁にとって夫の姉妹は、千匹の鬼に匹敵する)
- ・一事が万事 [1 - 10000]
- ・一犬虚に吠えれば万犬吠ゆる [1 - 10000] (一人がいい加減なことを言ったのを、人々が真実として広めること)
- ・一将功なりて万骨枯る [1 - 10000] (上に立つ者の功績は多くの部下の犠牲があってこそのものであること)

(30) 最初の数が [2] -----3 例

- ・二兎を追うものは一兎をも得ず [2 - 1]
- ・二人口は過ごせるが一人人口は過ごせぬ [2 - 1] (一人暮らしは無駄が多く不経済で、夫婦二人暮らしの方が安上がりだということ)
- ・二度あることは三度ある [2 → 3]

(31) 最初の数が [3] -----11 例

- ・三人旅の一人乞食 [3 - 1] (三人で共同の事をするとな人が仲間はずれになるということ)
- ・舌三寸の囁りに五尺の身を破る [3 - 5] (自らのちょっとした失言や讒言によって身の破滅に至る者が多いということ：「囁り」は、人のおしゃべりを意味し、三寸 [約 9 cm] の舌を駆使して話せば、5尺 [150cm] の体も破滅してしまう) {意味の対立は「寸」と「尺」という単位で明確になるが、数詞だけみると、反義性が弱化した例と捉えられる}
- ・朝三暮四 [3 → 4] (猿にどんぐりの実を朝、三つ、夕方に四つやるといったら怒ったので、朝に四つ、夕方三つやると言ったら、喜んだという話から、眼前の僅かな違いにとらわれて、結局は同じことが分からないこと)
- ・船形三里帆型七里 [3 - 7] (海上では、船体は、三里 [12 キロメートル]、帆は、七里 [28 キロメートル] の沖合まで見える)<sup>11)</sup> {弱

化した反義語的数詞の対立と考えられる}

- ・踊り三人見手八人 [3 - 8] (実際に物事を行う人より傍観する人の方が多いこと) {弱化した反義語的数詞の対立と考えられる}
- ・首振り三年ころ八年 [3 - 8] (首を振る技巧を習得し尺八を吹けるまで三年かかり、コロコロという音色を出すまでに八年かかることから、何事も極めるには、並大抵でない鍛錬が必要である) {「3」と「8」は弱く対立していると考えられ、弱化した反義語の一種と捉える}
- ・桃栗三年柿八年 [3 - 8] (物事が成就するには、それ相応の時間がかかるということ) {桃と栗は三年かかるが、柿は八年もかかると考えると、反義語として数の対立が弱化したと考えられる}
- ・櫓三年に棹八年 [3 - 8] (一人前に船の櫓を扱いこなすには三年、棹をこなすのは八年かかること：櫓より棹の方が難しい)
- ・三歳の翁、百歳の童子 [3 - 100] (十分に歳を重ねても愚かな者もいれば、若年でも老巧な者もいるということ)
- ・三つ子の魂百まで [3 - 100] (子供の頃の性格や性分や生涯変わることはない：「三つ子」は、三歳の子供、「魂」は人間の本性や考え方を意味する。)
- ・三つ叱って五つ褒め七つ教えて子は育つ [3, 5, 7] (子供を叱るより褒めるようにし、多くのことを教えてやるのが良いということ) {各数詞が量の割合を示すのに使われている}

(32) 最初の数が [5] -----1 例

- ・五風十雨 [5 - 10] (五日に一度風が吹き、十日に一度雨が振るのが農作物にはよいということ：世の中が太平なことのたとえ) {弱化した反義語的な数詞の対立と考えられる}

(33) 最初の数が [6] -----1 例

- ・六日の菖蒲、十日の菊 [6, 10] (時機を逸して役立たずになること：菖蒲は、五月五日の

端の節句、また菊は、九月九日の重陽の節句の花なので、六日と十日は、それぞれ一日遅れとなってしまう} {一日遅れの異なる数詞を重ねている}

(34) 最初の数が [7] -----5 例

- 七年の病に三年のを艾<sup>もぐさ</sup>求む [7, 3] (たとえ重い病に効能のある艾でも、病に倒れて七年も経ってからさらに3年もかけて蓬<sup>よもぎ</sup>を干していたのでは何の役にも立たないということから、i) 事が起こってしまっただけでは良い対策も意味をなさない ii) 為政は平素から仁政を施しておくべきである)
- 七度の餓死に遇うとも、一度の戦いに遇う [7 - 1] (餓死するような悲惨な状態に何度あっても、戦争よりはましだ)
- 七転び八起き [7 → 8] (何度失敗してもめげずに頑張ること)
- 七重の膝を八重に折る [7, 8] (二重にしか折れない膝を七重に折り、さらに八重にも折りたいほど、腰を低くすることから、これ以上出来ないほど、丁重に嘆願したり詫びたりすること) {「7」と「8」は、隣り合った数であるが、このことわざでは、順序ではなく、折る数量を強調するために、並べられていると捉えられる}
- 木七竹八塀十郎 [7, 8, 10] (木は、七月に、竹は八月に伐るのが良く、土塀は10月にぬるのが良いことから、ものには適した時期があるということ)

(35) 最初の数が [8] -----1 例

- 借りる八合濟す一升 [8, 1] (物を借りたら、お礼を添えて返すことが借り手の心得である：米を八合借りたら、二合足して一升にして返すべきだということ) {「合」「升」の単位の違いから、実際の数の対立は、「8」と「10」となり、反義語として扱うには無理がある}

(36) 最初の数が [9] -----4 例

- 九牛の一毛 [9 - 1] (大多数の中のごく一部)
- 九死に一生 [9 - 1] (九は、数の最大級を表し、もう少して命を落とすところで助かること)
- 九仞<sup>きゅうじん</sup>の功を一簣<sup>いっさい</sup>に虧<sup>か</sup>く [9 - 1] (あとわずかで長い間の努力が報われる間際の少しの油断で失敗する例え：九仞は、高い山の意味で、一簣は、畚<sup>もっこ</sup> [石や土を入れて四隅をまとめるようにしてかついで運ぶ道具] 一杯分)
- 人の心は九分十分 [9, 10] (人が考えるのは似たり寄ったりで、大して違わない)

(37) 最初の数が [10] -----2 例

- 十年一剣を磨く [10 - 1] (長い間腕を磨きながら好機を待つたとえ) 十年もの間、一つの剣を磨きながら、自分の腕前を發揮できる機会を待っている。
- 人の十難より我が一難 [10 - 1] (他人の大きな苦しみは、気にならないが、自分のことは、些細なことでも気になること)

(38) 最初の数が [20] -----1 例

- 二十<sup>はたちごけ</sup>後家は立つが三十後家は立たぬ [20 - 30] (夫婦生活の短い未亡人は、後家のままを通せるが、比較長的長く味わった者は、禁欲生活に耐えるのは難しい：「立つ」は、「暮らしが立つ」の意味である。) {ことわざの内容から、20代と30代がある程度対立しているので、弱化した反義語として捉えることにする}

(39) 最初の数が [30] -----1 例

- 三十振袖四十島田 [30, 40] (年増が年不相応な若作りをすること；晩婚のこと；下流の売笑婦が若く化ける形容) {30代と40代が対立していないで、年増の年齢を並べていると考える}

(40) 最初の数が [50] -----1 例

- 五十歩百歩 [50, 100] (大差なく、似たり寄ったりなこと) {離れている数詞ではあるが、

ことわざの意味から対立はないと考える}

(41) 最初の数が [80] -----1 例

- ・八十の三つ子 [80 - 3] (年を取ると、子供と同じような邪気のない性質になったり、聞き分けがなくなったりすること: 「三つ子」は三歳の子供のこと)

(42) 最初の数が [100] -----6 例

- ・百害あって一利なし [100 - 1]
- ・百尺竿頭一步を進む [100 - 1] (「百尺竿頭」は約 30 メートルもある竿の先端で、到達可能な極点を指す。完璧な上にさらに向上しようとする)
- ・百日の説法屁一つ [100 - 1] (長い間の苦勞が、わずかな失敗ですべてぶち壊しになる)
- ・百聞一見に如かず [100 - 1] (人の話を 100 回聞くより、自分の目で見た方が確かだ)
- ・百里の道は、九十九里を半ばとす [100, 99] (物事を完遂するには最後が肝心なので、気を緩めずに励めということ)<sup>12)</sup>
- ・百貫のかたに編笠一蓋 [100 - 1] (多額の支出に対してわずかしか収入がないこと: 「百貫」は、金百貫目で、「蓋」は笠等を数える語)

(43) 最初の数が [800] -----1 例

- ・雁は八百、矢は三本 [800 - 3] (近くに雁が多くいるのに手元には矢が三本しかないから、欲しいものは多いのに、手に入れる手段がない。または取るべき手段に困り、あれこれ迷うこと)

(44) 最初の数が [1000] -----6 例

- ・千金の裘一狐の腋に非ず [1000 - 1] ((i)国を統治するには幅広く人材を集め、いろいろな知恵を結集しておこなうべきである(ii)大事をなすには多くの人の力がいるということ。裘は、毛皮で作った衣。狐の腋の下の白毛で作った皮衣は鬼神の服として中国で珍重された。高価な狐の皮衣は一匹の腋の下の毛だけ

からでは作れないということ)

- ・千丈の堤も蟻の一穴より [1000 - 1] (些細な事、僅かな手落ちや油断から、大事に至ってしまうこと。一丈は、約 3 メートルなので、千丈は 3 km ということになるだろうが、非常に長いということである。蟻の一穴は、蟻一匹が出入りできるような小さい穴である。そこで、巨大な堤防も小さな蟻の穴が原因で崩れることがあるということ)
- ・千日の萱を一日に焼く [1000 - 1] (長く苦勞して作り上げたものを一度に失ってしまう千日もかけて刈り続けた萱を一日で燃やしてしまうということから)
- ・千里の道も一歩から [1000 - 1] (どんなに大規模で遠大なことも小さなことから始まる)
- ・鶴は千年、亀は万年 [1000, 10000]
- ・惚れても通えば千里も一里 [1000 - 1] (強い愛情を抱く相手のところへ行くのであれば、遠方であろうと遠く感じないこと)

(45) 最初の数が [10000] -----2 例

- ・長者の万灯より貧者の一灯 [10000 - 1] (物や金銭の多少より人の誠意が大事だということ: 貧者の真心からの寄進は、たとえ少しでも、富者の虚栄からの多量の寄進にまさるものである)
- ・万卒は得易く一将は得難し [10000 - 1] (真に優れた人は少ないということ: 「卒」は、下級の兵隊や雑俳を指し、「将」は將軍を意味することから、下っ端の兵隊を集めることはやさしいが、指導者になる人を見つけるのは、難しい)

5.4 一般的なことわざに於ける数詞の対立

5.3 では、『岩波ことわざ辞典』(2002) で二つ以上の異なる数が含まれる 70 の表現を調査した結果、51 例の数詞が反義語の一種として捉えられることが分かった。これは、70 のことわざの 73% に相当する。一方で、反義語とはみなされない例は 19 例で、その内 8 例が、順序を表す

数詞の組み合わせである。これらは、数詞の数が 2, 3, 4 の 3 種あり, [1 → 2] (「一に看病, 二に薬」), [1 → 2 → 3] (「一富士二鷹三茄子」), [1 → 2 → 3 → 4] (「一に褒められ二に憎まれ三に惚れられ四に風邪引く」) 等がある。残りの 11 例は、対立が見られない数詞の組み合わせである。5.1 でみた基本的なことわざと比べると、数詞の反義語としての役割は、約 1.5 倍になり、一般的なことわざに於いて、数詞の対比は約 7 割が反義語として捉えられると考えて正しいであろう。

## 6. 結論

本稿は、基本的な日本のことわざに於ける反義語を検討し、「一か八か」「二兎追う者は一兎も得ず」など数詞の対比を反義語として扱うことが可能であるかについて考察した。2 節で、反義語とことわざの関係を確認し、3 節では辞書による反義語の分類を見た後、先行研究を紹介した。最初に意味研究に於ける標準的対立、次に抽象概念に基づく反義語研究、そして、反義語の機能の研究を概観した。4 節では、基本的なことわざの反義語を抽象概念に基づく分類に従って調査した。結果は、清海(2011)で確認された特徴とほぼ同じであった。5 節は、数詞の対比に関して、基本的なことわざを対象に、異なる数詞が含まれる 22 例を調査した結果、半数の 11 例の数詞が反義語の一種として考えられることが分かった。次に『岩波ことわざ辞典』(2002)を参照して、一般的なことわざを調査した。二つ以上の異なる数が含まれる 70 の表現を調査した結果、73%に相当する 51 例の数詞が反義語の一種として捉えられることが分かった。基本的なことわざと比べると、数詞の反義語としての役割は、約 1.5 倍になり、一般的なことわざに於いて、数詞の対比は約 7 割が反義語としてみなされるだろうと提案した。

## 注

1) 詳しくは、Cruse (1986:197) を参照のこと。

- 2) [陸路—海路—空路] の組み合わせは、[陸路—水路—空路] という三語でも可能である。
- 3) 8 機能とデータに於ける割合は以下のようである (Jones, 2002 : 172)。
  - Ancillary Antonymy 「付随反義語」(38.7%)
  - Coordinated Antonymy 「等位的反義語」(38.4%)
  - Comparative Antonymy 「比較反義語」(6.8%)
  - Distinguished Antonymy 「分類反義語」(5.4%)
  - Transitional Antonymy 「移行反義語」(3.0%)
  - Negated Antonymy 「否定反義語」(2.1%)
  - Extreme Antonymy 「極度反義語」(1.3%)
  - Idiomatic Antonymy 「慣用句反義語」(0.8%)
  - Others 「その他」(3.5%)
- 4) 参考にした反義語辞典は、次の 3 冊である：『活用自在反対語対照語辞典』(2006), 『三省堂反対語対立語辞典』(2017), 『反対語対照語辞典』第 6 版 (1999)。
- 5) 「甲」と「乙」は、数詞として考えても良いと思われる。甲は 1 番目、乙は 2 番目の意味である。
- 6) 「本」は「おおもと」の意味で、「末」は「もとから分かれ出たものの端」である。この反義語は、参考にした反義語辞典の 3 冊に載っている。
- 7) 清海 (2011) でも、形状性概念を「空間」と「性質・その他」に下位区分した。
- 8) 『岩波ことわざ辞典』(2002)によると、「一を聞いて十を知る」ということわざには、似た表現や類句が多くあり、江戸時代までの用例には、前の数字が「1」「10」、後ろの数は「2」「8」「10」「100」「10000」という異なる数詞も用いられているという。
- 9) 「千差万別」と「千変万化」は、『岩波ことわざ辞典』(2002)と『新明解 故事ことわざ辞典』第 2 版 (2016) には載っていない。
- 10) 「両」は数詞ではないが、日常用いる「両親」「両手」「両側」等、「二」を意味することから、ここでは考慮に入れた。
- 11) 『岩波ことわざ辞典』(2002) は代表的な異表現として「船形三里帆型九里」を上げている



が、『新明解故事ことわざ辞典』(2016)では、これを見出し表現としている。

- 12) 5.1 で見たように『小学生のためのまんがことわざ辞典』(2018)では、「百里を行く者は、九十里を半ばとす」とある。

## 参考文献

- 池上嘉彦 1982. 「語彙の体系」佐藤喜代治(編)『講座日本語の語彙第1巻 語彙原論』205-223. 明治書院, 東京.
- 奥津文夫 2000. 『日英ことわざの比較文化』大修館書店, 東京.
- 清海節子 2011. 「日本語のことわざに於ける反義語の性質」『駿河台大学論叢』43:77-102.
- 清海節子 2014. 「『数』の背後にある意味: 「なぞなぞ」と「ことわざ」から考える数詞の日英比較」『駿河台大学論叢』49:125-159.
- 森岡健二 2008a. 「対義語とそのゆれ」宮地裕・甲斐睦朗(編)『『日本語学』特集テーマ別ファイル 普及版 意味1』45-52, 明治書院, 東京.
- 森岡健二 2008b. 「私の対義語観」宮地裕・甲斐睦朗(編)『『日本語学』特集テーマ別ファイル 普及版 意味3』60-63, 明治書院, 東京.
- Cruse, Alan, D. 1986. *Lexical Semantics*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Jones, Steven. 2002. *Antonymy; a corpus-based perspective*. Routledge: London and New York.
- Leech, Geoffrey N. 1981. *Semantics*, 2nd edn. Harmondsworth: Penguin.
- Lyons, John. 1977. *Semantics*, 2 vols. Cambridge: Cambridge University Press.

## 辞典

- 『岩波ことわざ辞典』時田昌瑞 2002. 岩波書店.
- 『活用自在反対語対照語辞典』第4版 反対語対照語辞典編纂委員会(編)2006. 柏書房.
- 『研究社 日本語教育事典』近藤・小森(編)2012. 研究社.

- 『広辞苑 第七版』(電子版) 新村出(編)2018. 岩波書店.
- 『三省堂反対語対立語辞典』三省堂編修所(編)2017. 三省堂.
- 『小学生のまんがことわざ辞典 改訂版』金田一春彦・金田一秀穂(監修)2018. 学研プラス.
- 『新明解 故事ことわざ辞典』第2版 三省堂編集所(編)2016. 三省堂.
- 『日英比較ことわざ事典』第2版 山本忠尚(監修) 創元社編集部(編)1996. 創元社.
- 『反対語対照語辞典』第6版 北原保雄・東郷吉男(編)1999. 東京堂出版.